

（2）東北地方太平洋沖地震発生の8年後から1年間の余震域内の主な地震活動

東北地方太平洋沖地震発生の8年後から約1年間（2019年3月11日14時46分～2020年3月11日14時45分）に、余震域（図1-1の領域a）内で発生したM6.0以上の地震を図2-1に示す。これらの地震の概要は次の通り。なお、今期間で最大震度5強以上を観測した地震はなかった。

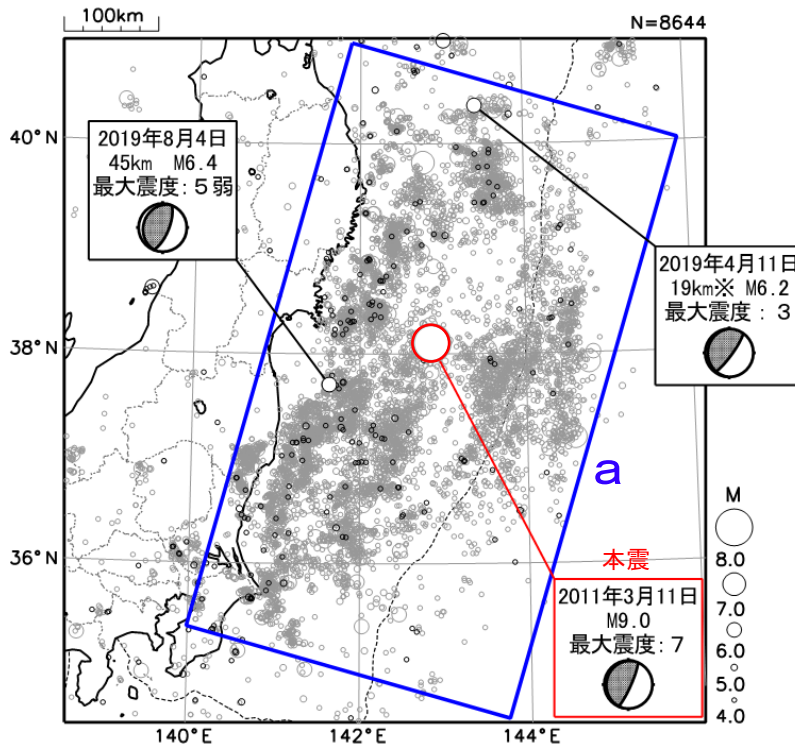


図2-1 震央分布図
（2011年3月11日14時46分～2020年3月11日14時45分、深さすべて、 $M \geq 4.0$ ）

東北地方太平洋沖地震発生の8年後から約1年間（2019年3月11日14時46分～2020年3月11日14時45分）に発生した地震を濃く表示している。

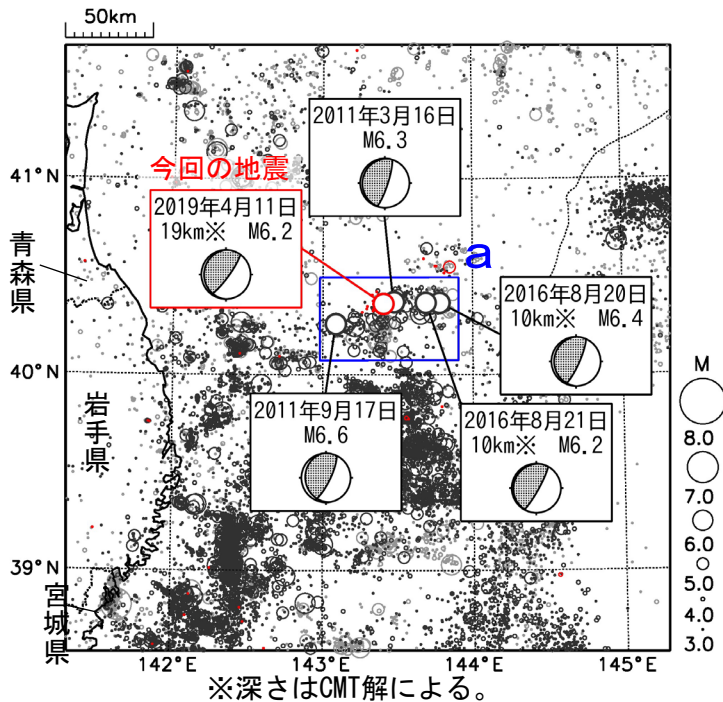
本震、及び領域a内で本震発生の8年後（2019年3月11日14時46分）以降に発生したM6.0以上を観測した地震に吹き出しをつけた。

発震機構はCMT解。領域aの範囲は図1-1に同じ。

※を付した地震の深さはCMT解による。

・2019年4月11日 三陸沖の地震（M6.2、最大震度3）（図2-2）

この地震の発震機構（CMT解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。



※深さはCMT解による。

図2-2

（左）震央分布図（1997年10月1日～2019年4月30日、深さ0～100km、 $M \geq 3.0$ ）、

（右）領域a内のM-T図及び回数積算図（1997年10月1日～2019年4月30日）、

東北地方太平洋沖地震より前に発生した地震を薄い灰色○、東北地方太平洋沖地震以降に発生した地震を黒色○、2019年4月に発生した地震を濃い赤色○で表示している。発震機構はCMT解を示す。※を付した地震の深さはCMT解による。

・2019年8月4日 福島県沖の地震（M6.4、最大震度5弱）（図2-3）

この地震の発震機構（CMT 解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

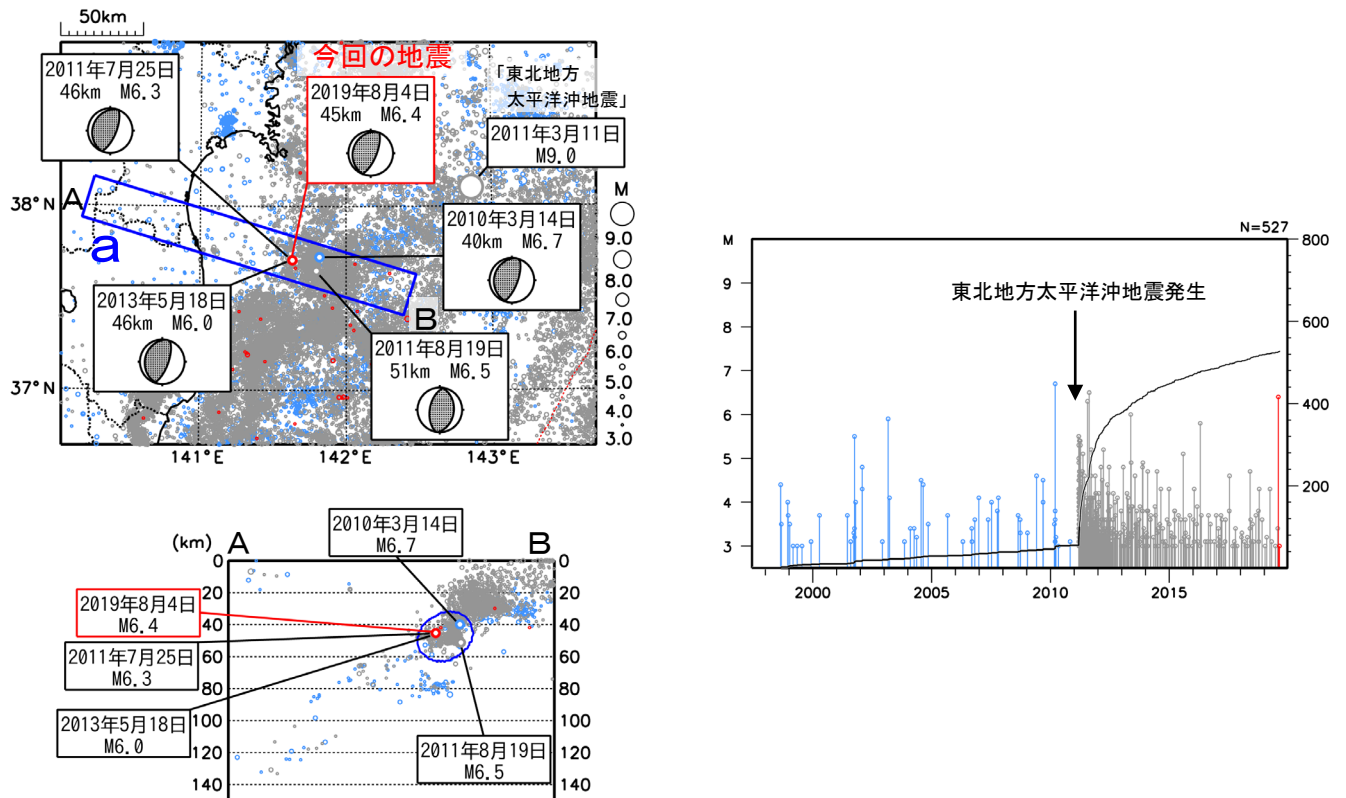


図2-3

（左上）震央分布図（1997年10月1日～2019年8月31日、深さ0～150km、 $M \geq 3.0$ ）、

（左下）領域a内の断面図（A-B投影）（1997年10月1日～2019年8月31日）、

（右上）領域b内のM-T図及び回数積算図（1997年10月1日～2019年8月31日）、

東北地方太平洋沖地震より前に発生した地震を薄い青色○、東北地方太平洋沖地震以降に発生した地震を灰色○、2019年8月に発生した地震を濃い赤色●で表示している。発震機構はCMT解を示す。